

平成23年度プロジェクト評価結果取り纏め状況等(前半)

1. 今年度評価状況等

(1)今年度は、40件【中間評価10件、事後評価30件】の評価を実施予定。

このうち、25件【中間評価10件、事後評価15件】について、各分科会での評価作業、第29回及び今回の研究評価委員会での審議を経て、評価報告を取り纏め、以下に整理した。

(2)中間評価結果は、プロジェクトの拡大、変更、縮小、中止等の今後の運営方針に反映し、事後評価結果も含めて、得られた教訓は、NEDOの研究開発マネジメントの高度化に繋げることが重要。

2. 中間評価の概要

(1) 全体傾向

各評価項目の評点結果の平均から見た全体傾向は、全体的に昨年より若干高めである。

(表1)

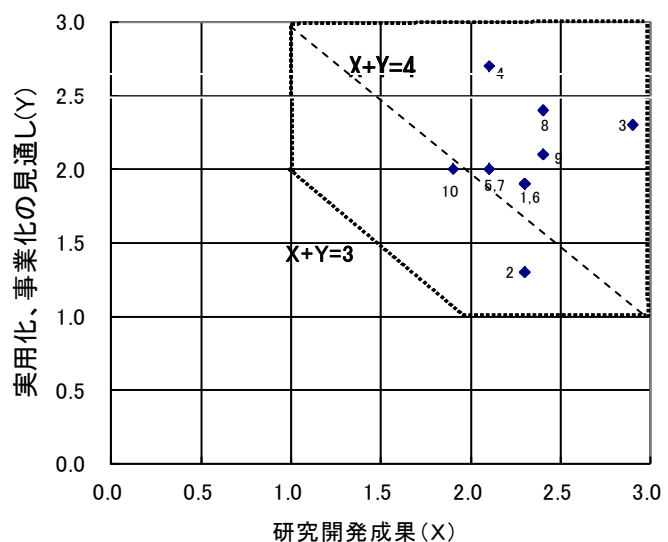
表1. 評価項目ごとの平均値推移

	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
23年度 10件	2.7	2.2	2.3	2.1
22年度 16件	2.8	2.0	2.1	1.6
21年度 25件	2.8	2.2	2.3	1.9
20年度 22件	2.8	2.2	2.4	2.0

また、上期に実施した10件のプロジェクトは、いずれも一定水準以上の評価結果であった。

(表2)

表2. 中間評価結果の評価分布(参考)



別紙2に代表する肯定的内容や改善点・提言を含めた評価結果について、現在、その反映作業を進めており、プロジェクトの拡大・変更・縮小・中止等、今後の運営に資する。

(注)標準的評価項目に対しA(優)B(良)C(可)D(不可)の4段階の評点を付け、A=3, B=2, C=1, D=0として事務局が数値換算。平均値を算出する。

* 表中の数字は別紙1の整理番号

(2) 個別プロジェクト(別紙2参照)

① 特に高い評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
3	グリーン・サステナブルケミカルプロセス基盤技術開発／ 触媒を用いる革新的ナフサ分解プロセス基盤技術開発	2.9	2.6	2.9	2.3

→ 大量のエネルギー消費を伴う熱分解によるナフサ分解プロセスに対して、触媒を用いて省エネルギーを行う技術開発。過去に何度も世界の企業がチャレンジしたテーマであるが、これまでに目覚ましい成果達成はない。本プロジェクトで得られつつある成果は、触媒技術の革新によって市場の創造をもたらす可能性が高い。

3. 事後評価結果の概要

(1) 全体傾向

上期においては、年間予定数30件のうち 15件について評価。

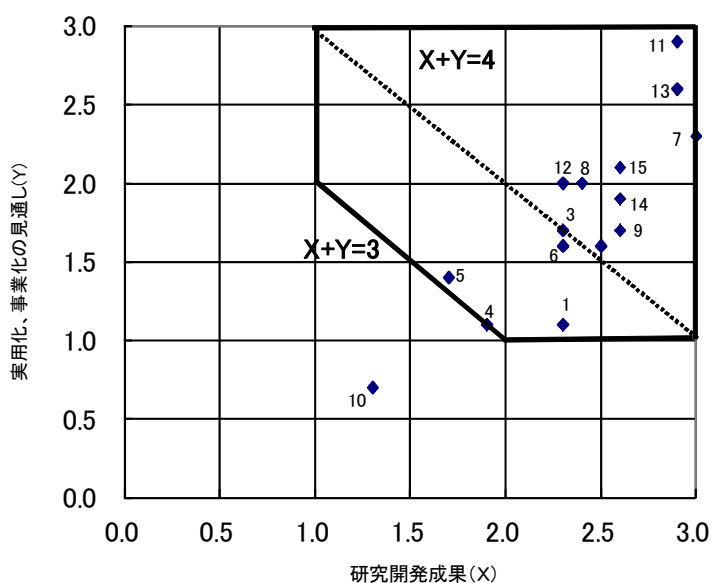


表 3. 事後評価結果の評点分布

* 表中の数字は別紙1の整理番号

本年度は上期が終了した段階で、15件中14件合格(合格率93%)、うち10件優良(優良率67%)となっている(中期計画全体の数値目標は合格率80%、優良率60%)。(表3, 別紙2)

(2) 個別プロジェクト(別紙2参照)

①特に高い評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
7	新機能創出ガラスの加工技術開発プロジェクト/ 次世代光波制御材料・素子化技術	2.9	3.0	3.0	2.3
11	糖鎖機能活用技術開発(分離・精製・同定/機能解析・ 検証/プローブ開発)	2.9	2.7	2.9	2.9
13	スピントロニクス不揮発性機能技術	3.0	3.0	2.9	2.6

→ 成果において高い評価を受け、かつ、実用化の見通しも明確であるとの評価を得た。
位置づけ、マネジメントの評点も高い。

② 合格ではあるが、厳しめの評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
1	次世代輸送系システム設計基盤技術開発	2.7	1.9	2.3	1.1
4	先端的 SoC 製造システム高度制御技術開発	2.9	1.4	1.9	1.1
5	発電プラント用超高純度金属材料の開発	2.6	1.9	1.7	1.4

→ 成果の評価はある程度高いものの、実用化見通しが厳しい評価となっている。
今後のプロジェクト立案、プロジェクトマネジメントへのフィードバックが期待される。

③ 特に厳しい評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
10	糖鎖機能活用技術開発(大量合成等)	2.4	1.4	1.3	0.7

→ 成果、実用化見通しとも厳しい評価 (別紙2に主な問題点、提言を記載)。

4. 後半の評価予定 (別紙1参照)

現在、後半のプロジェクトについて評価分科会での評価を進めている。今年度中に更に1回
研究評価委員会を開催する予定。

(3月を予定。事後評価15件附議予定。)